

檜葉町まち・ひと・しごと創生総合戦略〈第3期〉(概要版)

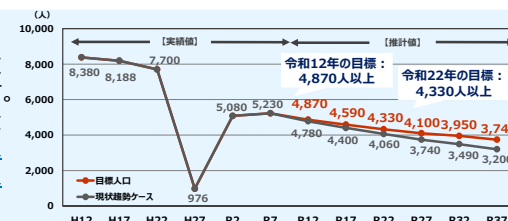
計画期間：令和8年度～令和12年度

～笑顔とチャレンジがあふれるまち ならは～

- 震災による全町避難を経て、檜葉町には生活の営みが戻りつつありますが、少子高齢化と生産年齢人口の確保が喫緊の課題となっています。これまでの復旧・復興課題の取組により一定の成果が得られた一方で、廃炉の決定や社会経済情勢の変化により、新たな視点でのまちづくりが求められています。
- 今後は、移住・定住施策を強力に推進するとともに、DXやGXの推進や、官民共創による地域課題の解決を図ります。「第六次檜葉町勢振興計画」の中間見直しとも整合を図りながら、単なる人口増加にとどまらず、地域資源を活用した「新しい地方経済」の創出や、町外の人々とも連携する「関係人口」の創出を通じ、将来にわたり活気ある持続可能なまちづくりに向けた取組を展開することを目指します。

人口ビジョン

- ◆ 現状のまま人口が推移すると令和22年には約4,060人まで減少すると予測されます。
- ◆ 本計画では移住・定住、関係人口の拡大を強力に推進し、**令和12年に4,870人以上、令和22年に4,330人以上の人口維持**を目指します。



基本目標1：若い世代に魅力のある雇用と多様な活躍の場を創出する

新産業の創出やDXによる既存産業の高度化により「稼げる地域」を実現します。また、柔軟な働き方を整備することで、若い世代や女性など多様な人材が自分らしく活躍できる環境づくりを推進します。

数値目標

年間
転入者数

R5：202人
➤ **202**人以上



基本目標2：まちの活力につながる新しい人の流れをつくる

人口減少下でも活力を維持するため、移住促進に加え、「関係人口」の拡大に注力します。切れ目ない移住支援と、地域資源を活かした体験・情報発信を強化し、多くの人に選ばれるまちを目指します。

数値目標

年間観光
入込客数

R6：85.9万人
➤ **100**万人



基本目標3：一人ひとりの夢や希望をかなえ、未来につながる社会をつくる

出会い・結婚、妊娠から子育て期までの切れ目のない支援体制を構築します。また、こどもたちの主体的に課題を探究する力と、世代を超えて学び合う「共育」の場を創出します。

数値目標

檜葉町は
子育てしやすい
と回答した割合

R6：65.6%
➤ **70**%



基本目標4：誰もが安心して豊かに暮らせる「笑顔」あふれるまちをつくる

心身ともに健康で生きがいを持つWell-Beingなまちを目指します。スポーツ推進やデジタル活用、防災強化で安全な生活基盤を確立し、地域資源活用により、誰もが輝ける共生社会を実現します。

数値目標

「幸せ度」7以上と
回答した割合

R6：66.1%
➤ **70**%

1-1 多様な働き方・活躍の場の推進

- ◆ 多様な人材（女性、若者、高齢者、障がい者、外国人等）が能力を発揮し、誰もが活躍できる場の創出。
- ◆ 事務職の雇用創出や、地域課題解決型の起業・スタートアップ支援の強力な推進。
- ◆ 仕事と家庭の両立支援やワーキングスペースの活用により、時間や場所にとらわれない柔軟な働き方の確立。
- ◆ マッチング支援や専門スキルを持つ移住者の起用促進による、地域経済の核となる人材の確保と定着。

1-2 産業の振興と高付加価値化

- ◆ 福島イノベーション・コースト構想（重点6分野等）と連携した戦略的企業誘致や、地元企業による廃炉関連産業への参入支援。
- ◆ 農業・林業・水産業における多様な担い手の獲得・育成とともに、水田のDX化（水管理等）による生産体制の構築。
- ◆ 「檜葉う米」「甘藷」「ゆず」のブランド力強化や、甘藷の選果施設及び加工施設などの整備等推進、6次産業化の推進。

2-1 移住定住・交流人口拡大プロジェクト

- ◆ お試し移住・滞在支援の充実により関係人口が気軽に再来訪できる環境を整え、移住者のライフスタイルを戦略的に発信。
- ◆ 移住専任スタッフ（セールス、オペレーション、サポート）をチーム配置し、移住検討者へのきめ細やかな相談体制を構築。
- ◆ 行政区とのつなぎや地域交流事業を通じてコミュニティへの定着を支援し、「ならはファン」のプラットフォームを構築。

2-2 地域資源を核とした観光力の強化

- ◆ 自然・食・文化等の資源を磨き上げた「体験型コンテンツ」の開発やトレイル・ウォーキングコース・サイクルートの活用推進。

2-3 「選ばれるまち」の基盤をつくる 戦略的情報発信

- ◆ ターゲット別のプロモーションを展開し、SNSの特性を活かした認知拡大とリアルタイム発信。
- ◆ 町民・事業者との「共創」発信を推進し、マスコットキャラクター「ゆず太郎」のデザイン活用やポーズ集作成等を促進。

3-1 切れ目のない結婚・ 子育て支援体制の構築

- ◆ 出会い・結婚、妊娠から子育て期までの包括的な相談体制の強化、こども家庭センターの活用による子育て応援隊・支援員の育成やファミリーサポート事業の運営強化。
- ◆ 多世代が共生する拠点づくりや親同士の交流機会を創出。

3-2 地域や社会全体との連携による 質の良い学びの機会提供

- ◆ 檜葉町教育振興基本計画の推進、および幼小中の連続的な英語教育、ふたば支援学校との連携強化。
- ◆ 習い事サポート補助金の導入検討や、ふるさと創造学やならはこどもチャレンジファンドの活用によるこどもの主体的・探究的な学びの促進。

3-3 未来共創 ならは・学び合いと 参画プロジェクト

- ◆ 市民大学やならはっ子ども教室、多世代協働プロジェクトの推進等を通じた、地域全体で学び合い参画する風土の醸成。

4-1 笑顔と活力を生む 「健康・スポーツ」のまちづくり

- ◆ 住民主体の「通いの場」活動の推進や、健診場所の選択肢拡大・特典付与による受診率向上、および多世代交流を通じた健康づくりの強化。
- ◆ 運動習慣の定着に向けて、ニュースポーツの推進のほか、eスポーツを活用した高齢者とこどもの異世代間交流の促進。

4-2 “農”を活かした多面的な取組の推進

- ◆ 収穫から販売までを一体的に楽しむミニ6次産業化体験プログラムや、農業体験を通じた食育の推進。
- ◆ 福祉施設における“農”関連プログラムの導入、および地元産品を使った商品開発等によるキャリア教育の展開。

4-3 暮らしやすく安全・安心なまちづくり

- ◆ 企業版ふるさと納税の活用等による地域課題の解決、およびデジタルを活用した利便性の高い行政・生活サービスの提供。
- ◆ キッチンカーやトイレ・ベッド等の資機材を平時から活用するフェーズフリーの考え方に基じた、災害時の避難生活環境の整備。